

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166

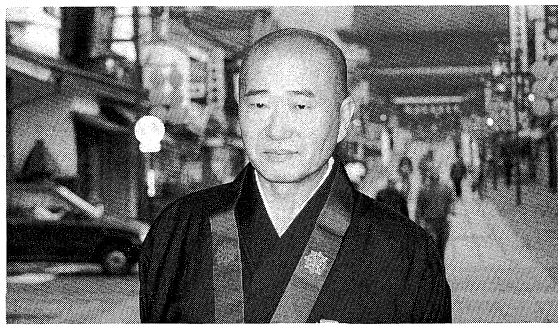
丙子の初頭に

横浜市仏教連合会会長 横山敏明

新年あけましておめでとうでございます。一口に申しておりますが、辛い新春を迎えられた方、前途に希みの見えぬ方等、種々の新春があると思存します。運勢を見るのが、今時流行しており、殆んど新聞雑誌に運勢欄があり、読んでもおられる方も多しと存じます。昨乙亥の年は近年まれに見る事件の年でありました。自然の異変、或いは特定グループによる反社会的事件、政治も経済もビジョンのないままに左右に大きく振れた年でもあります。情報またしかり、視座を持たないままに事象を追って行く傾向が多々ありました。しかし、現実はこちらと殆んど関係なく推移して行くことも事実であります。どんな一日であろうと二十四時間経過すれば次の一日に移っていくのも事実であります。この一日が大晦日と元旦であっても同じ道理であります。

禅宗の方で圓悟の碧巖集と万松の従容録という有名な禅録があります。これらは参学の人が目を通さねばならぬ書といわれておりますが、だからといってこれがなければ参学が成り立たぬということではありません。それぞれの宗派には更に重要な祖録があるわけがあります。さてこの従容録の中に「直待年窮歳盡、依旧孟春猶寒」という語があります。当然のことながら前後に言葉があり、一つの

話の中での語でありますので、これだけを取りあげますと、様々な誤解や曲解が生じ易いのですが、大晦日と元旦のことを申し上げるためにあえて抽出してみました。字の通りの意味でございますが、良いことも悪いことも、事の軽重も、貸借も全て清算し終って、さ



あ元旦というが常時元旦は寒い位に考えていただきたい。晦日に一応の区切りをつけてみたものの元旦は芽出度いかというところ程でもない。この一日と次の一日、昨日の一日と今日の一日の移り変わりも大同小異であります。私達の日送りもこんな感じではないでしょうか。

仏教、「日々是好日」とか「一寸の光陰、虚しくわたることなかれ」という言葉を大切にしております。さきほど申してきました日常の日送りを一寸考えてみよというところであります。晦日と元旦では、平成七年から八年、乙亥の年から丙子へ、一九九五年から九六年にと何から何まで新らしく変ってしましますが、そうでしょうか。樹木は寒風の中で皮肌を引きしめ、草々は地中に殻を固くして時を待ち、鳥は適温を求めて南に北に飛翔する。世間でいう一つ年を経た私は、やはり私であり昨日の私と何の変わりもない。そんな風景でもあります。

丙子の初頭にあたり、私はかく決意したとして、本来申すべきではありませんが、時間に動かされ空間に無為であったは、仏の道を歩むとはいえないと申せましょう。昨日も存し、今日も為さねばならぬ、そんな日送りを今年も寧日なく過ごして参らねばならぬと肝に刻んで参る瞬間でもあらうと存じます。

市仏連も、本年は宗教法人法の改定施行を控えて様々な運動と指針を立てて参らねばならぬ年を迎えたわけでありましたので、役員一同気持を一つにして奉仕して参る所存ではあります。会員皆さま方の倍旧のご支援ご協力なければ、この難事を打開出来ません。市仏連一体となって進むよう努力を傾注して参りますので、ご助言ご指導をお願いして新春の挨拶とさせていただきます。

市仏連役員名簿

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|------------|------|----------|------|----|------|-------|------|-------|------|------|------|----|------|----|------|-----|------|-------|------|--------------|------|
| 名誉会長 | 梅田信隆 | 顧問 | 志村慎吾 | 顧問 | 柳下隆侃 | 顧問 | 森山正城 | 参与 | 福永隆昭 | 会長 | 横山敏明 | 副会長・会報編集指導 | 玄野孝善 | 副会長・専務理事 | 川上敬吾 | 会計 | 橋下賢明 | 税務委員長 | 斎藤隆法 | 墓地委員長 | 奈良光雄 | 会報担当 | 備前恭忍 | 監事 | 関水俊道 | 監事 | 野沢隆幸 | 他役員 | 内野公雄 | 顧問弁護士 | 遠藤隆也 | 市仏連積尊奉議会事務局長 | 程木徳明 |
|------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|------------|------|----------|------|----|------|-------|------|-------|------|------|------|----|------|----|------|-----|------|-------|------|--------------|------|

平成七年、釈尊奉讃会の秋の参拝旅行が、りんごの里長野から米どころ新潟へと歩んで、多大な心の収穫を得て行われた。

「弟子らよ、汝らに衣と食物と薬とを供養する在家の人々は汝らにとって大いなる助けをなす人である。汝らもまた始めも終わりも美しい、淨らかな教法を説いて彼らの助けとなる。出家と在家とは、このように相頼り相助けて、煩惱の暴(あら)き流れを超えわたって、苦しみの終りをなすのである。〔『本事経』〕。横浜市釈尊奉讃会主催、市仏連協催の今回の善光寺、一茶・良寛の里を訪ねての旅

秋の仏跡参拝



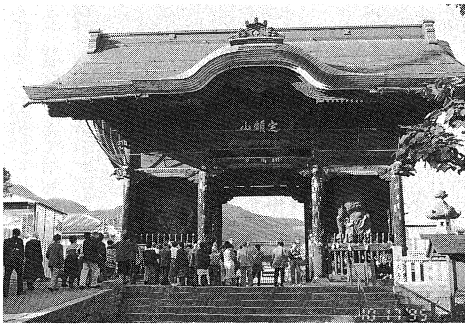
十月十七日から二泊三日、奉讃会の旅行にお伴して信濃善光寺、越後路に一茶、良寛を訪ねた。久方ぶりのバス旅行ではあったが、どうやら皆さんの迷惑にもならずホッとしております。総勢七十一名が二台に分乗しての楽しい勉強になる三日だったと思います。初日は、高速度をゆっくり走って長野善光寺へ、幾度か立寄った地ではありましたが今回はゆっくりと散策を楽しみながらガイドさんの話に聞き入り、早朝の参拝も始めて二日目をすっきりした気分を迎えることが出来ました。一茶記念館、郷土民俗資料館、見学の後、昼食を終えて良寛の里美術館へ、立派になって場所も変っていたが展示品は更に充実して

のキートワードは「南無阿弥陀仏」であったと思う。以下に参加寺院名を記し、ご協力に感謝を申し上げます。御礼とする次第である。西有寺横山敏明師。東照寺程木徳明師。日出子様ら十二名。海照寺滝川扶弥子様ら八名。保福寺高橋哲英師ら八名。西蓮寺吉水保子様ら二名。松蔭寺二名。西福寺一名。新善光寺二名。高松寺西尾俊雄師、涉子様の二名。長昌寺玄野孝善師、公余様ら六名。東泉寺関水俊道師。西福寺備前恭忍師ら十五名。宝蔵寺三名。徳善寺尾崎町子様ら二名。善昌寺七名。

いた。国上寺に五合庵を訪ねて新装なった吊り橋を渡る、こども随分と整備されたように思いました。湯田上温泉小柳に長旅の疲れをいやし、昔日のあれこれの思い出しながら夢を結びました。翌十九日弥彦山国定公園で遊び、魚のとうより海産物の商店街寺泊での昼食とショッピングを終えて帰途についたのですが、この度の旅で、小さな町や村に立派な、一茶や良寛さんの記念館があり観光に随分と力を入れていることが見受けられたことでした。往復の車窓から見た広々とした米どころ越後平野の景観から、この土地に暮らす農家の人々の自然との戦いと調和、一時の平穩の後に農政による先行き不透明な米作り、函む姿がオーバ

旅の思い出

① 善光寺の朝のお勤めには感動しました。大本願尼公上人さまと二人の若い弟子の尼僧さんは、数時間ものあいだ、ずっと御経を読み続けられ心から鍛えられていることに頭が下がりました。冬になったら、さぞかし大変だろうと思いました。② 旅館とは違う大勢の参拝客をお世話下さる宿坊の、行き届いた接待ぶりに心あたたまる思いがし



ました。個人の旅行では味わえない経験でした。



③ 「大ほんがん」でのお説教。薄暗い厳かな壇上から、尼僧でいらっしゃる御上人さまの静かで切々とした、お声が有り難かった。④ 善光寺、良寛さまについては、漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、直接現地を訪れた新たな感動を呼び起こしました。特に、善光寺のお堂の戒壇巡りで地下道の暗闇を抜け出たときには、仏様のご加護で、この世に出させていだいたような有り難さを感じました。⑤ 柏原の一茶の里へは、大分前に社員旅行で来たことがありましたが、社長が一茶さんに特に興味を持たれていたからなのでしょう。苦労人の社長さんが、不遇だった一茶の死を、活に涙し、不屈の意志

⑥ 「信濃では月とほとけとおらがそば」の善光寺さんと一茶さんの生家跡を訪ねることができて嬉しかった。⑦ 善光寺さんは寺域も広く、本堂、山門、仁王門も大きく、独特な様式に目をみはりました。千古老杉の茂った幽棲の寺ではなく、街中の埃っぽい感じだが、宗派を問わず信仰されている寺。宿坊のお手つぎの方の案内が面白い。⑧ 着いた日の夕方に善光寺本堂へ参拝し般若心経を唱和し、翌朝六時半に大本願尼公上人の御珠頂戴の儀に参道にしゃがんであずかり、本堂ルリ壇下の戒壇巡りをして。我が講中は真っ暗な処を声を掛けながら、極楽往生の入口の鍵





4

があったとか触れたとか大騒ぎで出てくると善光寺の係のおばさんに、賑やかな参拝団だねと噂われ、恥ずかしくした。

⑨ お朝事動行での鷹司誓玉尼公上人の十念の名号授けの独唱に聴き惚れました。

⑩ 「牛に引かれて善光寺詣り」は「御師に引かれて善光寺詣り」の地口が訛ったものらしい。善光寺先達が一枚の白布の「善の綱」を持って信者を引っ張る事例が基にあって、名コピイが生れた。

⑪ 豊野、野尻の道路沿いはリンゴ並木が続き、アップル街道と呼ばれ、途中のリンゴ販売農家に臨時にバスを止めて、リンゴの成っている木の下で写真を撮ったり触ったり、試食で齧ることができて、砕かせない気分を味わった。

⑫ 赤いリンゴ、青い海、黄色い木の実など色あざやかな風景も存分に目に焼き付けることができ、



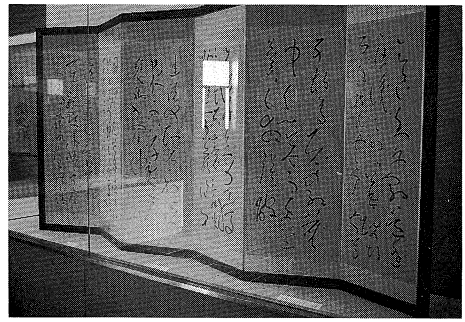
5

また、信州、越後のおいしい料理も頂くことができて素晴らしい旅でした。

⑬ 国上寺の山の中にこもられていた良寛さん。子供と遊んでいたという印象だけでしたが、すごい精神力だったと思います。

⑭ 良寛さんのお寺で良寛さんの像の前で、良寛さんの歌を歌いました。歌詞を口ずさみながら良寛さんの人柄に、胸にジンとくるものがありました。教えて下さったご住職さん方のご配慮に感謝します。

⑮ 空気のおいしさと広大な、かんばら平野、木々の間から見えた真っ赤な夕陽が想い出されます。いろいろとお世話になりました。本当にありがとうございます。旅先での失礼のありました点はおゆるし下さい。素晴らしい旅の思い出を大切に、また訪れてみたいですね。



6

⑯ 引率のご住職さん、奥様方がよく気がつかれて、お世話してくださるので勿体ない気持ちでした。さすがに、参加される人もいい人ばかりで、すっかり打ち解け、お寺の旅行ならではの良さを感じました。

以上の感想は、同行の会報担当の関水俊道記者がアンケート調査で聞き取りをした話を中心にまとめた記事である。

写真説明

- ① 善光寺仁王門をくぐる一行。山号を定額山と称す。大正七年建立。
- ② 朝の勤行に上殿される大本願鷹司誓玉尼公上人(左二人目)と迎える横山市仏連会長。
- ③ 三門前の仲見世通りの賑わい。
- ④ アップル街道沿リンゴ園にて
- ⑤ 一茶俳階寺の面影亭。「初夢に古郷を見て涙かな」の句碑がある。
- ⑥ 良寛記念館所蔵の廿茶の書。

二度目の大往生(永 六輔著)

「大往生」でも書いたように、親父つまり永忠順は浅草の最尊寺の十六代目の住職で、一九九〇年に九十歳で亡くなりました。

親父が自著「最尊」に書いたことばから読んでみます。

「愛する者との、この世ではもう相見ることの出来ないかなしみが、浄土での再会をたよりにして少しでも薄らぐというのならば、そうしてそれが宗教というものによって与えられるなぐさめだというのなら、それもまたいいだろう。しかし、浄土での再会がどうして私たちにわかるのか。

いやわかるわからないではない、そう信じるのだといわれるかも知れないが、信じるということは、經典の所説や先師の法語という、書かれたり説かれたりするものを信じることであろう。

書いたり説いたりした人たちはそう信じていたにしても、それがそのまま何の手続きもへずに私たちの信心になるわけはなかるう。後世での再会を信じるというよりも、自分でそうと思いついて現在のかなしみをまぎらわせるよりもあとさきのない一期の生命をかけて、かなしんでもかなしみきれない愛別のかなしみを、なぐさめられず、まぎらさず、赤裸にかなしむ方が、より人間的であり、むしろ宗教そのものではないのか。

なぜかといえ、ありようは、仏も神も、このかなしみからお生ま



御内陣参拝之証 淵之坊

信州 善光寺

迎春

祈法愛

横浜市仏教連合会常務理事
 神奈川区仏教会長
 曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221 神奈川区高島台一十二
 電話 三二二一〇一九一

横浜市仏教連合会会計

浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒233 港南区野庭町一八四三
 電話 八四二一七二八八


横浜市仏教連合会会報担当

真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246 瀬谷区橋戸三二二一
 電話 三〇一一六一三四

布 慈 雲

徳方
 以院


横浜市仏教連合会名誉会長
 大本山総持寺梅田信隆禪師御親筆

横浜市釈尊奉讃会事務局長
 港北区仏教会長

曹洞宗東照寺住職

程 木 徳 明

〒223 港北区綱島西一十三一十五
 電話 五三一七八三

横浜市仏教連合会常務理事
 保土ヶ谷・旭区仏教会長
 高野山真言宗大仙寺住職

安 達 宏 識

〒240 保土ヶ谷区霞台一五一一六
 電話 三三一二九〇五

横浜市仏教連合会常務理事
 磯子区仏教会長
 高野山真言宗大聖院住職

鷺 雄 興 勝

〒235 磯子区東町六一二〇
 電話 七五一〇六七二



新年会

迎春

祈法愛

横浜市仏教連合会副会長兼専務理事

臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 鶴見区東寺尾一―一八一―
電話 五七一―一七〇―

横浜市仏教連合会常務理事

瀬谷区仏教会長

曹洞宗徳善寺住職

尾 崎 正 惠

〒246 瀬谷区本郷三―三六一―六
電話 三〇一―〇一九二

横浜市仏教連合会顧問

高野山真言宗海照寺住職

滝 川 覚 道

〒235 磯子区坂下町四―一九
電話 七五一―七二〇四

横浜市仏教連合会副会長

保土ヶ谷旭区仏教会会計監査

曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 旭区さちが丘五九
電話 三九一―一三七九

横浜市仏教連合会常務理事

戸塚区仏教会長

浄土宗西蓮寺住職

吉 水 法 雄

〒245 戸塚区名瀬町二四七八
電話 八一―〇四六八

横浜市仏教連合会会長

曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 中区大平町九六
電話 六六一―〇一六六

横浜市仏教連合会御用達

東海ビーエス観光株式会社社長

真 川 明

〒240 保土ヶ谷区西久保町一―四
公園ハイツ二―一八
電話 三三四―三三〇〇

横浜市仏教連合会会報担当

東泉寺副住職

関 水 俊 道

〒245 泉区下飯田町七四三
電話 八〇二―八〇九七

横浜市仏連税務委員会委員長

都筑区仏教会長

高野山真言宗福聚院住職

斎 藤 隆 法

〒226 都筑区池辺町二二二九六
電話 九四一―一三六六

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒221 (自 宅) 神奈川区白幡上町一八四
110(事務所) 台東区東上野二―一八一七
電話 〇三―八三二―二八一九

横浜市仏教連合会常務理事

西区仏教会長

法華宗勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220 西区南 榎井 沢 九
電話 三一―一三五五七

支部だより

港 北 区

一昨年、都筑区が新しい区として分区分してから四十七ヶ寺に減少しましたが、区を五地区に分けて各地区理事さんがその地区をまとめて、会費の徴収や慶弔などの世話をして下さいます。

年間行事は総会、花まつり、祝務研修会、鶴見川花火大会に恒例の灯笼流しを行い、毎年千灯をこえております。区の戦没者慰霊祭は十余年前から無宗教形式で行われておりますが、数年前から仏教会役員が区仏を代表して参加しております。この各行事へは半数をこえるご寺院の参加があり、その都度、懇親を深めております。宗教についての世の人々の関心の高まりつつある今日、東横線、横浜線、市営地下鉄線の走る人口の集中度も高い港北区として、私たち仏教会の果たすべき役割の重大さを感じ、今年も努力致したいと存じます。よろしく御支援のほどをお願い致します。

栄 区

金井町玉泉寺由来記

当寺は臨済宗円覚寺派に属する。言い伝えでは、元享年間に建立された天台宗の寺で、補陀山常光院と言われていたようである。開基は、九州日向の国(宮崎県)の司、橘常光の弟の常清であることが過去帳に記載されている。本尊は正観世音菩薩及び薬師如来である。

来である。

建武二年(一一三五)円覚寺の龍隠庵の開山である太雅省音禪師の法を嗣いだ東洲宜和尚を拝請して臨済宗に改め、宝陀山玉泉寺となったのである。

江戸時代になり、当寺の二十世となつて居る誠拙周樞は、鎌倉の円覚寺を復興し、その後、隠居所としてこの玉泉寺を選び住職となつた。誠拙は、延享二年(一七四五)伊予の宇和島に生まれた。七歳で仏海寺の靈印和尚について得度し、十六歳で諸師に参じて修行し、後に横浜の永田町にある東輝庵(現在は宝林寺となつて居る)において、月船禪慧禪師に師事して、その禪師の法を嗣いだのである。明和八年、月船の命により、二十七歳で円覚寺に入り、修行僧の指導者である前版師となつたのである。そして、当時、相当地に荒廃していた円覚寺を再興したのである。

円覚寺の復興を終えると、当時に住している弟子たちが、不顧庵と言う小庵を新築し、誠拙禪師を拝請したのである。その頃より、休息と称してちよくちよく禪師が来山していたようである。その後、忘路亭という茶室を構え、弟子たちは禪師の来山に応え、そして、師を迎えたのである。

文政三年に京都の天竜寺、相国寺に拝請され、京都に赴き相国寺の僧堂の開單式を行った。その後、体の不調を訴え、六月二十八日示寂したのである。密葬の後、東山慈照院(銀閣寺)で火葬したのである。

ある。お骨は誠拙禪師ゆかりの京都の心華院・鎌倉の正伝庵・そして当寺の三ヶ所に埋葬された。大正八年大用国師と諡された。師のお墓は、当山の中腹にあり、師の好きであつた竹を模した灯笼と花立てがある。墓所には誠拙禪師が書した『金剛經』の写経と爪や歯が納められていて、『爪牙塔』と呼ばれている。

当寺には、誠拙禪師に関する資料を始め、墨跡、絵画等の軸物が多く残されている。

現住・鈴木省訓 記

瀬 谷 区

平成八年区内寺院掲示板めぐり

○本郷 徳善寺(曹洞宗)

「自分を信じ
他人を信じ
お互いに
信じ合う
くらし」

○竹村 善昌寺(浄土宗)

『和』増上寺八十六世の色紙
浄土愛語

「いそぐみちは
あしのおそきをなげく」

目標をかかげ、その達成にたゆまず精進努力する人の一日は短い。時の流れの早きに比して、精進努力の進みは、はがゆいほどおそい。待望の目標はいつ達成できるであろうか。

○上瀬谷 妙光寺(日蓮宗)

○北新 宗川寺(日蓮宗)

お題目から始まる。
今月の聖語
「仏と申すことも

我等の心の内に
おわします」

戸 塚 区

○橋戸 西福寺(真言宗)

美しい日は美しい夜となり。
鉄拳の指をほどけば何もなし。
次に短冊四枚に排句四首
拝みて受く一得の初笑顔
子の歳の福たまはりし初布袋
朝日享く上求の御掌や霜ひかる
かざし来る黄金飾りや初不動

○二ッ橋 最勝寺(浄土真宗)

「欲深き人の心と
降る雪は
積もるにつけて
道も忘るる」

右記の掲示語句や文章が通行人や参詣者らの目に触れて、何かしら好影響を与えているものと思いたい。実際、声に出して読んだり、手帳などに書き留めたりしている人を見かける。

○泉戦没者慰霊月例会
泉仏教会より十月法要は戸塚仏教会が行う順番がきて前回のよう
に実施してほしいと連絡が来た。
みなさまもご承知のように、講和条約締結の記念に泉民の寄付と
県によって昭和二十八年に建設されたのである。

明治からの本県出身の軍人、軍属と戦災死者、外地の戦没者など
五万七千余霊であり、月例祭も四百四十余回を数えております。
実施前日に係の方から出仕する
寺院数と参集時刻の確認の電話が
あります。

当日は十時より打合せ。十時半より法要開始。挨拶、献香、読経法話で全部が三十分間で十一時終了とした。そして参加の遺族は県の中央部と西部の方々である。

ここに慰霊堂を運営する各位のご尽力と雲林寺北見師、西立寺山沢師、専念寺伊藤師、圓福寺福田師、天理教雅楽部の土屋・中沢氏の御協力を感謝いたします。

戦後五十余年。ご遺族の層も僧侶として軍隊の経験ある方も数少なくなつた。今日あることは英霊の加護あつてと信じ、より平和を求め、国際的な視野をもつことが必要と考えます。会長 吉水法雄

保 土 ヶ 谷 区

当仏教会では特に布教化に力を入れている。その一端として恒例により次の事業を執行した。

一、秋の仏跡参拝旅行
前回の旅に続いて阪東めぐりの旅で、弘明寺観音、鎌倉光明寺そして安養院、岩殿寺を参拝、光明寺では、参拝者全員で心経を読経し、御住職上人から法話をいただき、昼食は海の見えるホテルで舌づつみをうった。

一、成道会の開催
積尊成道を記して、保土ヶ谷区天徳院様を会場とし、約百五十名の善男善女が参詣した。総持寺より横一洋老師を講師とお迎えし仏教の意義と現代と題して法話をいただいた。

一、年末助け合い運動として保土ヶ谷、天王町、鶴ヶ峰駅で十二月二十五日全員で托鉢をした。

●心の健康診断

早期発見は、身体的疾病の治療に欠かせません。人間ドックは、その最も有効な手段です。しかし、心の健康診断は案外見逃されているのです。正しい心の持ち方を、六つの仏教的観点からチェックするというのはいかがでしょうか。いわば寺が行う「心の健康診断」です。

1. 親切心……人に物や真心を施し、少しでも役に立ちたいという気持ちがあるか。
2. 自制心……ルールを守り、悪い行いをしないという強い意志がもてるか。
3. 忍耐心……どんなことにもめげずに、がまん強い心を持つことが出来るか。
4. 努力心……こつこつとまじめに自己の向上を目ざし努力を積み重ねることが出来るか。

心の健康チェック

| | 親 | 自 | 忍 | 努 | 平 | 真 |
|--------|---|---|---|---|---|------|
| 1. 親切心 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | (布施) |
| 2. 自制心 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | (持戒) |
| 3. 忍耐心 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | (忍辱) |
| 4. 努力心 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | (精進) |
| 5. 平静心 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | (禅定) |
| 6. 眞実智 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | (智慧) |

5. 平静心……行事にカッとせず常に冷静沈着に行動できるおだやかな心を持てるか。
6. 眞実智……正しいものの見方ができ、その場の正しい判断による行動がとれるか。

以上の観点により、仏教的生き方の達成度を自己診断してみるのです。これらの観点は、言わずもがな「六波羅密」を法の受け皿として設定したものです。すなわち1布施、2持戒、3忍辱、4精進5禅定、6智慧です。苦手な項目については、それぞれの科目に入院加療するような気持ちで、法を説くといった展開はいかがでしょうか。

話 材 紹 介

●心と病氣

最近注目を集めている本に次の二冊があります。

『脳内革命』春山茂雄著（サンマーク出版）
『いのちの奇跡』をみつめて

森津純子著（大和出版）
二冊が共通して訴えていることは、心の持ち方が病気に大きく関係し、人間の体はそれ自身で計り知れない治癒力を持っているということ。

『脳内革命』によれば、人間の脳からは自然治癒力をもった「脳内ホルヒネ」と呼ばれるホルモンが出され、気をよくさせ、老化を防化し、病気を治す薬理作用を行っているということ。そして、

この分泌を活性化させるために、「食事」「運動」「瞑想」の三つを大切にして、ストレスをためないプラス発想を勧めています。宗教に関する記述を抜粋してみます。「昔から偉いお坊さんは高いレベルで世の中を見とおし、人を感化する力をもっていました。……彼らの生き方、考え方を調べてみると、脳内ホルヒネ系を駆使したとしか思えないことがあります。」「正しく立派な生き方、世の中のために生きる生き方をするほど、人間は若々しく健康で病気に無縁でいられるということなのです。」「いまのお坊さんは何でも食べるので、人によってはとつともない

危険な生活をしていますが、伝統的な精進料理は、脳の若さを保つのに最適といつてよいものです。とくに豆類を加工した豆腐、麩、湯葉、は植物性の良質なタンパク源で、昔のお坊さんの長生きとボケ防止の切り札でした。」「成人病はその原因の八・九割がストレス、つまりは心の問題にかかわっているのに、……肝心の心の治療をないがしろにしてきた」というように、病氣と心の関係性を強調し、瞑想や正しく充実した生き方をすすめています。また、森津純子氏は、日本で初の仏教ホスピス長岡西病院ピハール病棟を開いた女医さんですが、現在の科学医療を越えて、人間の持つ生きがい、まごころ、愛とい

った心の治療が「いのちの奇跡」を呼ぶことを訴えています。宗教、仏教、寺院、僧侶の役割について改めて考えさせられる二冊とも言えます。

●良寛禅師の戒語

昨秋新潟を訪ねた折に、目に止まった良寛さんの「言葉について戒しめ」の抜粋を掲載します。
一、ことばの多き。
一、はなしの長き。
一、問わすがたり。
一、てがらばなし。
一、じまんなし。
一、人のもの言いきらぬうちに、もの言う。
一、さして口。

- 一、人の話のじやまをする。
- 一、たやすく約束する。
- 一、人に物くれぬさきに、何々やろうという。
- 一、くれてのち、人に語る。
- 一、よく心得ぬことを人に教ふる。
- 一、よくもの講釈をしたがる。
- 一、しめやかなる座にて、心なくもの言う。

支部だより

金 沢 区

会務報告 平成七年
九月二日 仏教文化講演会 於金沢公会堂 午後六時開場 講師・永六輔氏 演題「大往生」 聴衆五五〇人 出仕二〇ヶ寺及び仏教婦人会 行事主任・正法院友繁照 純師

十月二日 区遺族会主催慰霊祭出仕 午前十一時より会場寺前・葉王寺 出仕十一ヶ寺
十月十一日 午後三時 区釈尊奉護会理事會 於金沢園 会長出席
十月二十八日 交通安全祈願會 於洲崎・龍華寺 午後二時より 出仕十八ヶ寺及び仏教婦人会 主任・伝心寺大沢憲明師 なお当日、区釈尊奉護会総会に於て、新奉護会長に大道・宝樹院総代の鈴木敬一郎氏が選出され、約四〇年の長きにわたる会長を務められ、奉護会を今日の隆盛に導びかれた宇野忠夫氏は名誉会長となられた。
十一月三日 金沢町称名寺須方智證師、大僧正叙任祝賀會 於千代本 午後六時より三役出席
十二月二日 税務講習會 於富岡・持明院 午後三時より 講師・税理士の細渕慎一氏 出席十三ヶ寺 主任・持明院能登有栄師
十二月八日 区仏理事會 於蒔田寿司 午後四時 各行事報告並びに決算報告
平成八年一月十一日 区仏新年總會 於金沢園 午後四時 出席十八ヶ寺 各行事報告並びに決算報告

一月十七・十八日 釈尊奉護會の新春参拝旅行で伊勢志摩方面へ、八十四名参加
二月八日 花まつり大会地区打ち合わせ会（六浦地区）午後六時 於瀬戸泥牛庵 三役出席
二月十五日 区仏涅槃會法要 於金沢公会堂 午後十時三〇分 行事主任・龍華寺和田大雅師 法

泉 区

話は光伝寺住職の安田旭成師 出仕十四ヶ寺と仏教婦人会 泉区内の御寺院をご紹介します

「中田寺」

山号は、貯徳山。院号を示福院 という。泉区中田町の町名と同じ寺名なのは、一村・一寺・一社で開村という歴史がある。宗派は「浄土宗」で、もとは「増上寺」の末寺であったと伝えられる。開山は、慶長十七年（一六一三）で「本誓良廊開山上人」「石巻下野守康敬開基」とする。

石巻康敬は、小田原北条家の重臣で落城の後、この地に逃れ隠れ里とした。家康江戸入城のおり、東海道・戸塚に出迎え「旗本」となり「中田」を領地として治めることを認められた。「康敬の墓碑」は「岡井孝先・選文」で、平成六年、横浜地域史蹟に指定される。境内は、山門（弘化二年）・本堂・客殿・庫裡・鐘樓堂・稲葉堂からなる伽藍。本堂正面には「二河白道」を模して「仏足蹟・宗歌石碑」を左右に配した小庭ほか、慈母観音・水子地藏等々大小さまざまの石像・石塔が点在する。また、江戸相撲筆頭（現在の理事長）を努めた力士、戸田川鷲之助（最高位小結・二代）の墓石が現存。なお戸田川は、三代目玉垣や、三代目雷権太夫を襲名した。 本堂には本尊として「阿弥陀三尊」（平安の仏師・定朝作）があり恵心作とも伝え聞く。また、恵

心書画「雲上の阿弥陀座図」や「岩船地藏菩薩木像」がある。また、稲葉堂には鎌倉観音霊場・三十三番札所となる「十一面観音菩薩」と「閻魔大王」が安置されている。

釈尊涅槃会実施

第二十一回市仏連主催の釈尊涅槃会が西区南登井沢の勤行寺様を会場として、平成八年二月十日（土）に挙行された。西区仏教会担当で導師に市仏連会長横山敏明西有寺住職（曹洞宗）を、法話講師に南区大光院住職で大正大学教授の宮林昭彦先生等をお迎えし、日ざしは弱かったが、さほどの寒気も感じない良天候にめぐまれ、百人を超える参詣者があった。

会処の住職、都築哲信師は西区仏教会の会長であられる。この寺は横浜駅西口から徒歩十分位の所に在り、高層ビル群を抜け出るとつき当りの岩山に緑生の豊かな自然を背景にした、静寂な別天地という感じで現代建築の本堂、客殿庫裡も落ち着いたたたずまいを見せている。宗派は法華宗陣門流で、ご本山は新潟県三条市の本成寺である。 法話等詳細は次号に譲る。

事務日誌

- 7・11・10 市仏連発 常務理事会 開催案内
7・11・21 市仏、西区仏涅槃会 第一回打合せ 於勤行寺
7・12・6 常務理事会、理事会 於桂月
7・12・20 市、連発 役員研修

旅行案内

- 8・1・10 市仏連発 涅槃会案内 状配布願
8・1・10 市仏連発 涅槃会随喜依頼案内
8・1・10 市仏連発 涅槃会講師依頼
8・1・26 三役会 於西有寺
8・1・27 市仏連発 会報原稿依頼
8・2・3 市仏連発 奉讃会だより配布依頼
8・2・6 市仏、西区仏涅槃会 第二回打合せ 於勤行寺
8・2・10 第二十一回涅槃会 於勤行寺
8・2・14 会報四十二号編集準備会合 於長昌寺
8・2・21 会報四十二号編集完了 於長昌寺

各事業のお知らせ

- 第二十二回市仏連総会開催 平成八年五月二十七日（月） 於西有寺 午後二時
○春の仏蹟参拝日帰りバス旅行 平成八年六月八日（土） 川越市喜多院（天台宗）と秩父方面、長瀨川下りなど。
○市釈尊奉讃会総会 平成八年五月十一日（土） 於西有寺 午後二時

各区仏役員交流会

市仏連と釈尊奉讃会活動の活性化を発起するためには、各区仏の会員寺院の方々のご支援とご協力が必要不可欠である。総会や理事会の出席者も少なく、情報周知の

編集後記

会報配布も速やかに円滑に行き渡らないことも時にはあるとき。そこで親睦交流の場を設け理解を深める。左記の日時ですので、各区仏より二名以上（会長、副会長、諸役に墓地と税務委員等）のご参加をお願い申し上げます。 平成八年四月十一日（木）〜十二日（金）。箱根湯本温泉かじか荘。

県慰霊堂奉仕当番

- 8・4・5 瀬谷区仏教会
8・6・5 都筑区仏教会
8・10・7 南港南区仏教会
8・11・5 神奈川区仏教会
9・1・6 西区仏教会

釈尊奉讃会より

いつもお世話になっております。奉讃会から重ねてお願い申し上げます。市仏教会の布教部として発足してから早くも十六年、奉讃会だよりも年二回発行で三十一号となりました。その間、南は沖縄、九州、四国、北はみちのくの山寺中尊寺へと巡礼し、今年には北海道から恐山へと考えております。しかし年を追って高齢化の波は本会会員の上にも迫ってまいります。どうか皆様のお力によりまして新しい会員の増強をお願い致したいと存じます。各区仏教会の役員様にはどうかお口添え下さいませ。よう、よろしくお願致します。 入会費は二千円、年会費は千円で事務局までよろしく。

横浜市港北区綱島西 一〇三の十五 電話（一）一七八三 東照寺

◎ 昨年は初頭より暗いニュースが、そして大きな事件があり、心が痛む思いをしました。今年こそは明るいニュースがと思っていました。が、北海道の豊浜トンネルの崩壊事故、そして住専問題等再び暗いニュースが入り悲しいニュースが絶えない。

◎ そんな暗い年であっただけに市仏と奉讃会による仏蹟参拝旅行で長野善光寺一泊のおまじりは善男善女が朝のおつとめに参詣した時の表情は一人ひとり一心に合掌し何かを祈っていたすがたは実にすばらしかった。これからの仏蹟参拝にはぜひ参加いただきたい。

◎ 二月十日に行なわれた第21回釈尊涅槃会は、西区仏教会と会所の勤行寺さんのご協力で無事円成する事ができた。講師の宮林昭彦上人（大光院住職、大正大学教授）の法話は我々生きる根元をわかりやすくお話しただけだ。寒中であつたが多数の参詣が集り、心に灯火をつけて帰宅した。お手伝いいただいた各寺院には心から感謝申し上げます。 ◎ 会報の編集から校正そして発送まで、前回より、泉区の東京寺副住職が、お手伝いいただけようになつた。そこで今回からすぐに役立つ法話集を掲載する事にした。これからの時代は布教活動が大切な時代になる。そこでこのページを設けた。ぜひ御活用願いたい。